

kommt ans bauhaus!

きたれ、 バウハウス

2019.
08.03 sat —
09.23 mon

バウハウス開校 100年 きたれ、バウハウス —アート／デザインの原点—

休館日 | 月曜日(8月12日、9月16日・23日は開館)、8月13日(火)、9月17日(火) | 開館時間 | 9時30分～18時(観覧券販売は開館30分前まで) | 観覧料 | 一般1,000円(800円) 大高生 800円(600円) * ()内は20名以上の団体、およびリピーター割引料金(本展観覧券の半券提示で2回目は割引) * 中学生以下無料 * 障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方、および一部の介助者は無料(受付でご提示ください)

bauhaus100 japan | Web | www.bauhaus.ac/bauhaus100/ | Facebook | www.facebook.com/bauhaus100jp/

Dessau 校舎は、モダニズム建築の特徴の一つでもある
 陸屋根 (フラットルーフ) を、全棟に渡り展開した。
 1923年に建設されたバウハウスの最初の実験住宅でも陸屋根が採用されていた。
 アトリエ棟の屋上は、断熱処理が施されており、
 特殊なアスファルト板によって覆われ、その上を歩くことができる。
 その他の屋上部分は、耐候性のために
 当時の最新の技術を使用した建材で覆われているが、
 歩くことはできない。

バウハウスは、1919年、ヴァイマルで開校し、
 1925年、 Dessau 移転にあたり新校舎が建設され1926年に竣工した。
 初代校長を務めた建築家ヴァルター・グロピウス(1883-1969)による設計で、
 建物全体の色彩計画、照明や家具といった調製品に到るまで
 バウハウス内部で総合的にデザインされた。
 当時の最新の建築技術と設計思想が注ぎ込まれた Dessau 校舎は
 20世紀建築に最も影響を与えた建造物のひとつとされている。
 1996年、校舎とその周辺の関連建築群は世界文化遺産に登録された。

ファサード面から後退して設置された支柱によって
 ガラスのカーテンウォールが実現された。
 この構造によって、建物全体が重力から解放されたような
 軽やかな感覚を生み出すことが可能となった。

鉄筋コンクリートによる強固な骨組みにより
 構造体としての壁の役割が軽減されたことで
 全面ガラスによるカーテンウォールが可能となった。
 これにより採光性・透明性に優れたガラスのファサードが実現された。
 この部分は、換気のための精巧な開閉機構も備えている。

新潟市美術館

〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9
TEL.025-223-1622 FAX.025-228-3051 E-MAIL:museum@city.niigata.lg.jp
新潟市美術館 | Web | www.ncam.jp | Facebook | www.facebook.com/ncam.tsunagaru/

主催 | 新潟市美術館、バウハウス100周年委員会 | 後援 | ドイツ連邦共和国大使館、スイス大使館、ハンガリー大使館、一般社団法人 日本建築学会、公益財団法人 いがた産業創造機構、公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 新潟地域会、一般社団法人 新潟県建築士事務所協会、公益社団法人 新潟県建築士会、新潟日独協会、新潟アートディレクターズクラブ | 特別協力 | ミサワホーム株式会社、東京国立近代美術館 | 協力 | 桑沢デザイン研究所、大阪芸術大学、株式会社アトリエ ニキティキ | 協賛 | アウディ ジャパン株式会社、株式会社インターオフィス | 企画協力 | 株式会社アートインプレッション、株式会社ミサワホーム総合研究所



inter.office



ON THE OCCASION OF
jahre
bauhaus

